

所属・資格 ドイツ文学科・助教

申請者氏名 山崎 祐人

研究課題		ドイツ語の人称代名詞の分裂文と談話構造
報告の概要	研究目的 および 研究概要	申請者はこれまでドイツ語の名詞句の分裂文を主な研究対象としており、人称代名詞の分裂文は分析の対象から外していた。本研究では、名詞句を用いる通常の分裂文で確立した分析を人称代名詞の分裂文に敷衍することを目的とし、人称代名詞の分裂文と談話構造の関係について、意味論、統語論、実験語用論の観点から考察する。
	研究 の 結果	ドイツ語の分裂文には二種類の語順が存在する (Es ist Hans, der kommt. It is Hans who comes / Hans ist es, der kommt. Hans is it who comes)。しかしながら人称代名詞の分裂文においては、人称代名詞がコピュラ動詞の前に置かれる語順が基本であり、人称代名詞がコピュラ動詞の後に置かれる語順は極めて珍しいことがコーパス調査の結果明らかとなった。
	研究 の 考察・ 反省	ドイツ語の人称代名詞の分裂文と談話構造の関係を分析するにあたって、代名詞の特性を論じるために、ドイツ語の指示代名詞の分裂文を分析対象に加える必要性が生じている。名詞句の分裂文、指示代名詞の分裂文、人称代名詞の分裂文の比較を通して、実証的・理論的な分析をさらに深める予定である。分析が完了した後、研究内容を発表および論文にまとめる予定である。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。  なし。
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	ドイツ語の指示代名詞の分裂文に関する分析がまだ途上であるため。